

たぐろ

TAKUSUI
No. 633

7
July, 2009

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



JF兵庫漁連山田隆義会長から贈られた祝鯛を掲げる井戸敏三知事

兵庫県水産会館竣工

系統団体事務所移転のご挨拶

Report 平成21年度 3団体合同総会開催

第34回兵庫県漁民物故者合同供養祭開催



兵庫県水産会館竣工 系統団体事務所 移転のご挨拶

神戸市兵庫区の地で、長年皆さまに親しまれてきた「兵庫県立水産会館」ですが、老朽化を機に、7月21日に明石市へ移転し、新たなスタートを切ることになりました。
新水産会館での業務開始にあたり、各系統団体の皆さまから寄せられたメッセージをご紹介します。

事務所移転のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会

このたび、兵庫県漁業協同組合連合会は、来る7月21日(火)、本所事務所を下記のとおり移転することになりました。
新水産会館は、会員・所属員の皆様に気軽に足を運んでいただくため明石市に建設し、食育や魚食普及を推進するために調理実習室も設置しています。

また、7月20日にオープンするSEAT CLUBとともに、「兵庫の魚」を県民にどんどんPRしていきたいと考えています。
これを機に、役職員一同心を合わせて頑張って参りますので、皆様方のより一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本店移転のお知らせ

兵庫県信用漁業協同組合連合会

謹啓 向暑のみぎりますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引立てに預り、厚くお礼申し上げます。
さてこの度、現在の兵庫県立水産会館の老朽化による建て替え・移転にともない、本会本店事務所を来る7月21日より下記場所に移転することになりましたので、ご案内申し上げます。

職員一同一層のサービス向上に励み、より皆様にご満足いただけますよう努めてまいります。
なにとぞ今後とも格別のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。
まずは略儀ながらご案内かたがた、ご挨拶申し上げます。
謹 白
平成21年7月

事務所移転のお知らせ

兵庫県漁業共済組合

拝啓 麦秋の候、貴職益々ご盛栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格段のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。
さてこの度、左記のとおり7月17日をもって、事務所を移転することになりました。これを機に職員一同さらに

業務に専心努力いたしますので、皆様のご支援ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。
まずは略儀ながらご案内かたがた、ご挨拶申し上げます。
敬 具
平成21年7月

事務所移転のご挨拶

兵庫県内海漁船保険組合

この度、私共兵庫県内海漁船保険組合は、来る7月21日、事務所を兵庫県水産会館2階に移転することとなりました。これを機に旧に倍しまして、役職員一同自助努力も怠ることなく、漁協経営に役立つことを継続して

実施し、漁業者から必要性のある保険事業としての推進に邁進する所存でありますので、皆様におかれましては、尚一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます、ご挨拶申し上げます。

水産会館移転に際して

共水連兵庫県事務所

共水連もおかげをもちまして50年にわたり水産会館で業務を続けることができました。これもひとえに会員各位及び組合役職員の皆様、系統諸団体など多くの関係各位のご支援とご協力の賜と心から感謝を申し上げます。

事業の拠点であった水産会館は、昭和29年の竣工以来55年の歳月を重ねてきましたが、時代の流れと共に老朽化が進み、移転後解体されることを想うと感慨深いものがあります。

昭和33年4月1日に共水連(当時は全水共)兵庫県事務所が水産会館に開設され、全水共が漁協に事務を委嘱するという形で事業を実施、初代所長に三浦清太郎氏が就任し、職員数3名で業務を開始しました。兵庫県において漁業者に協同組合の共済を提供する運動の第一歩となり、まさしく水産会館が事業のスタートラインとなりました。

業界全体の変遷と共に歩んできた水産会館は、今では

建物全体にわたって老朽化が進んでいますが、竣工当時の水産会館は近代的な建造物であったと聞きました。造作物の一部には建築上貴重な構造物が使用されているようで、当時の兵庫県における水産業の栄華を垣間見ることができ、兵庫県の水産業のシンボリック施設であったと言っても過言ではありません。

この水産会館が兵庫県の共済事業の拠点として、漁業者や組合役職員の皆様に共済情報の発信を行ってまいりましたが、7月からはその拠点を明石に移し、新たにスタートすることになります。

これを契機に役職員が一丸となって業務に精励し、信頼される共済団体を目指すと共に業界発展のために努力していく所存でございますので、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務所移転にかかるご挨拶

兵庫県漁業信用基金協会

県内漁業者のシンボル「兵庫県水産会館」が明石市において7月11日に竣工いたしました。

当協会は昭和28年に設立され、昭和36年2月以降、約半世紀にわたり県立水産会館にて業務を行ってまいりましたが、「兵庫県水産会館」完成をもって、このたび7月17日(金)より、新たな事務所で業務を開始いたしま

した。

これを機に、役職員一同漁業者の資金融資の円滑化を通して中小漁業の振興に寄与すべく、決意を新たに業務に取り組んでまいりますので、会員並びに関係各位には今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務所移転のご挨拶

財団法人 兵庫県水産振興基金

漁業者のみなさん待望の新しい兵庫県水産会館が、いよいよ明石市に誕生します。当基金では、7月17日(金)から新たな事務所で業務を開始いたしますが、これを機に役職員一同、自らの役割と業務の公益性を再確認しながら、さらにフレッシュな気持ちで活力溢れる漁村

づくりや、それを力強くリードする人づくりに邁進していく所存です。

これからも格別なるご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

兵庫県水産会館 〒673-0833 明石市中崎1丁目2番3号

入居団体名	部署名	電話番号	FAX
兵庫県漁業協同組合連合会	総務部	078-940-8011	078-917-3811
	電算室	078-940-8012	
	指導部	078-940-8013	
	役員室	078-940-8020	
	SEAT CLUB	078-917-4137	
	企画経営管理室	078-940-8015	
兵庫県信用漁業協同組合連合会		078-919-1210	078-919-1211
兵庫県漁業共済組合		078-919-1256	078-919-1257
兵庫県内海漁船保険組合		078-920-8137	078-911-8143
共水連兵庫県事務所		078-919-1377	078-919-1388
兵庫県漁業信用基金協会		078-919-1314	078-919-1318
(財)兵庫県水産振興基金		078-919-1331	078-919-1336

平成21年度 3団体合同総会

平成21年度3団体合同総会が6月23日(火)に兵庫県立水産会館で開催されました

JF兵庫漁連



JF兵庫漁連は臨時総会で、山田会長は開会にあたり、「今日、我々漁業をとりまく環境が非常に厳しい中で、兵庫の漁業を次世代へ継承していく為には、一人一人が立ち上がり総力を結集しなければ我々の漁業の明るい未来を構築できないと考えている。

本会においては、新たな時代に向けた中期経営計画を実行中であり、上半期を終え現在のところ、収支状況としては順調に推移している。

今後はさらに、役職員一同が一致団結し、「日々改革」の気持

ちをもって取り組んでいく所存であり、今後とも会員各位の格別なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶され、その後、次の事項が可決決定されました。

第1号議案 退任役員への役員退任手当の支給について

退任理事(小松 司)に対する役員退任手当について、可決決定されました。

第2号議案 役員補欠選任について

役員欠員の欠員が生じたので、推薦会議で推薦された下記の候補者が選任され、可決決定されました。

氏名		略歴
中川 照央	理事	現 室津漁業協同組合代表理事組合長
豊田 修	理事	現 東由良町漁業協同組合代表理事組合長
小溝 政二	監事	現 育波浦漁業協同組合代表理事組合長

報告事項 漁業用燃油流通効率化緊急特別対策事業について事業の実施内容が報告されました。

JF兵庫信漁連



秋武信漁連会長は通常総会の開催にあたり、『平素は、信漁連に対しまして会員の皆様方より、ご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。また、県及び農林中央金庫におかれましても、日頃より、ご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。』

平成20年度につきましては、100年に1度あるかないかの世界規模の金融危機が発生し、大きな混乱を招き、その終息は未だ見通し難い状況であります。漁業系統金融をとり巻く環境も依然厳しい環境下ではありますが、役職員一体となって経営努力を重ねてまいりました結果、配当財源を確保することができました。

本通常総会でご審議いただきます「中期経営計画」の実現に向けて努力を重ね、真に漁業者等利用者の負託に応える事業を行う「浜の暮らしを守る信頼の金融」を目指して「健全経営の確立」に努める所存でありますのでよろしくようお願い申し上げます。

また、併せて、本年度も引き続きまして、会員ほか関係諸機関のご協力を衷心よりお願い申し上げます次第であります。」と述べ、審議後、以下の事項が可決決定されました。

第1号議案 平成20年度事業報告、附属明細書および剰余金処分案について

第2号議案 平成21年度事業計画の設定について

第3号議案 定款の一部変更について

第4号議案 中期経営計画の設定について

第5号議案 平成21年度内における借入金の最高限度について

第6号議案 役員報酬の支給について

第7号議案 役員補欠選任について

報告事項1 平成20年度貸借対照表および損益計算書について

報告事項2 行政庁検査等における指摘内容および改善措置の内容について

報告事項3 余裕金運用規程の変更内容について

事業概要

平成20年度の世界経済は、米国で発生したサブプライム問題は9月のリーマン・ショック以降世界的金融危機の発生という新たな局面に突入し、実体経済にまでその影響が波及してきていることから、金融政策も緩和姿勢にあります。

本県系統信用事業につきましては、「JF兵庫信漁連中期経営計画」並びに「JF兵庫信漁連中期事業推進方策」の第3年度として、一県一信用事業統合体完成後の事業運営体制強化への取り組みを行うとともに、「あんしん体制推進委員会」及び「漁家経営再生対策検討委員会」を設置して実践的事項について協議を行いました。

本会の業務全般ならびに経営収支につきましては、当初策定の計画に基づき対応してまいりました。実績はそれぞれ別記のとおりであります。昨年度、大きく落ち込んだ海苔養殖漁業の生産が回復したことで、貯金量も増加し、年度後半の金利低下に伴い、収支バランスが改善し、前年度を上回る剰余金を計上することができました。

事業計画

平成21年度は従来より取り組んできた事業方針に加え、これら厳しい現状にある漁業者の経営再生対策を重点事項として取り組み、活力ある漁村作りに貢献したいと考えています。

また、漁業生産はもとより生活全般にわたっての金融サービスを提供し、漁業者等利用が継続的に安心して利用できることを目的として、店舗運営体制の整備を行い、安定的な益構造の維持ができる体制構築の実践に取り組みながら「信用事業安定運営責任体制(あんしん体制)」の確立を目指してまいります。

そのための指針として、平成18年より実施してきた中期経営計画を発展させた向う3年間の新たな中期経営計画並びに中期事業推進方策を策定し実践してまいります。

一県一信用事業統合体構築後の「信用事業安定運営責任体制

「あんしん体制」の確立を目指し、平成21年度は、真に漁業者等利用者の負託に応える事業を行う「浜の暮らしを守る信頼の金融」の中期ビジョンのもと、「使いたくなる、選ばれるJFマリンバンク」を構築するため、体制整備、金融力強化、健全性強化の3つの視点から取組実践を行ってまいります。

- ① 組織・体制の整備 (ア) 店舗構成の再編
(イ) 業務運営体制の整備
(ウ) 広域信漁連の検討
- ② 系統金融力の強化 (ア) 系統全利用運動の実施

(イ) 女性部との連携強化

- ③ 経営健全性の確保 (ア) 財務健全性の確保
(イ) コンプライアンス態勢等の強化
(ウ) 監査の充実

経営環境は、引き続き厳しいものと予測されますが、「浜の暮らしを守る信頼の金融」を行う金融機関としての理念と特性を基本軸としつつ、社会的に系統金融が継続的に実施できる態勢を整備することを第一義として、積極的に事業運営を行ってまいります。

JFぎよさい兵庫



平成20年度 第45回通常総会が6月23日に開催されました。吉岡組合長は冒頭挨拶で「7月には現水産会館の老朽化に伴い、明石の新水産会館に移転することから当県立水産会館最後の総会となることを申し添え、平成20年度は、魚価の低迷や燃油高騰など厳しい漁業環境の中、特にノリ特定養殖共済において、県の掛金助成の実施や市町・水産振興基金の掛金助成率の引上げにより補償力の大きな全事故比割合でん補方式の加入が増加しましたが、共済金の支払いが6億円を超えるなど厳しい状況が続いていることから、本年度はさらに補償力の強化に取り組んでまいります」と述べられ、審議の後、以下の議案が可決決定されました。

第1号議案 平成20年度事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案について

第2号議案 平成21年度事業計画の設定について

第3号議案 借入金の最高限度の決定について

第4号議案 余裕金の預け入れ銀行について

第5号議案 平成21年度における役員報酬について

第6号議案 役員の補欠選任について

事業概要

平成21年度は、漁業共済事業で181億7千万円、地域共済事業で5億6千万円の加入目標金額を設定して、継続契約の確保のもとより、新規加入の実現と契約割合の引き上げによる補償力の向上に取り組みました。

その結果として、平成20年度の加入実績は、漁業共済事業で179億3千万円、地域共済事業で、5億6千万円、総合で184億9千万円となり加入計画を2億5千万円下回る実績となりました。

これは、継続契約における休廃業に伴う契約件数の減少、生産金額の減少に伴う補償水準の低下及び3月末契約の責任期間開始日を次年度に変更した契約があった等によるものです。

また、支払実績では、漁業共済事業においては、前年度より1億5千2百万円増加した6億6千万円の支払となりました。また、地域共済事業では、漁船の機関故障事故などによる休漁等で5百万円の支払となりました。両事業を合わせた総支払額は6億6千5百万円となり、依然として災害が多発している状況を反映しています。

以上の結果、本年度の事業部門の収支は1,129万円の黒字となりました。管理部門では1,812万円の黒字となりましたので、総合収支では29,411万円の剰余となりました。

一方、本年度より実施された新しい漁業経営安定対策事業(積立

ぶらす)は、当組合に推進室を設置して、県並びにJF兵庫漁連をはじめとする系統団体と連携して積極的な加入推進に努めた結果、加入件数117件、漁業者積立額が1億円を超える加入実績となり、当初計画2千6百万円を大幅に上回る加入実績となりました。

事業計画

本県の漁業を取り巻く環境は、資源の減少や魚価の低迷といった厳しい現状の中、燃油価格の乱高下により漁業経営は不安定状況が続く、一層厳しさを増しております。

このような状況の中にあって、昨年度は平成19年度のノリ養殖において過去に例を見ない色落ち被害が発生し、加えて3月5日に発生した貨物船ゴールドリーダー号の衝突・沈没事故による油流出により、のり養殖が生産中止に追い込まれたことにより、漁業共済は多額な共済金支払いを行っており、漁業経営の安定に大きく寄与してきたところであります。

本年度は、漁業共済団体が平成18年度から展開してきた全国運動「浜を守る!ぎよさい総加入運動」の成果と反省を踏まえて、引き続き今年度より4年間にわたり展開される新普及推進全国運動「ステップ・アップぎよさい」の初年度として、より一層の加入の普遍化・定着化を目指し取組みの強化を図ります。

特に、本年度はより漁業の実態に即し、漁業者がより加入しやすくなるための選択の幅を拡大した漁業災害補償法の改正に基づく改正制度とあわせて定期利率改定が本年10月に予定されており、そのスムーズな活用に取り組むとともに、漁協系統団体・行政庁及び漁漁連等の更なる支援・協力のもと、漁業共済経営環境変化特別対策事業等の掛金助成事業を活用しながら制度の定着と高度利用をはかるべく最大限の努力を傾注することとします。重点目標としては継続契約の確保はもとより、瀬戸内海地区の小型底びき網漁業及びノリ養殖業の加入拡大、及び契約割合の引上げ、でん補方式の見直しによる補償力の更なる強化に取り組めます。

さらに、昨年度より事業が開始された漁業経営安定対策(積立ぶらす)については、漁業者の所得を守る有効な事業としてその役割が高く評価されており、ぎよさい事業と併せて漁業者の経営安定に貢献すべく、兵庫県漁業経営安定対策協議会を中心として、県及び漁協系統団体と一体となって、その加入拡大に積極的な取組みを行うこととします。

本年度の加入目標共済金額を、漁業共済事業184億円、地域共済事業5億5千万円と設定します。

主な施策

1. 「ステップ・アップぎよさい」初年度の取組
2. 中央・地方一体的推進活動の展開
3. 系統各団体・行政庁との連携
4. 広報活動の活発な展開
5. 漁業共済掛金助成等事業の活用
6. 研修活動の充実強化と組織の活性化
7. 事務処理体制の効率化等
8. 漁業経営安定対策事業(積立ぶらす)への対応
9. 共済団体の組織再編

役員が改選されました 但馬地区漁協女性部連合会

6月17日(水)、JF浜坂町本所の大会議室において、但馬地区漁協女性部連合会(久瀬よし子会長・JF浜坂町)の平成21年度通常総会が、来賓を含め50名の出席のもと開催されました。平成20年度事業実績及び21年度計画の審議、承認ののち、任期満了に伴う役員改選が審議され、会長には植田美智代氏(JF但馬)、副会長には塩谷やす子氏(JF但馬)と浜田千恵子氏(JF浜坂町)が選任されました。植田新会長は「厳しい状況ではありますが、皆さんの協力を得て頑張りたい。」と抱負を述べられました。なお、今後の計画においては、魚食普及推進について、7月に竣工を迎える新水産会館の活用等を含め、意欲的に取り組みたいとのことでした。

総会終了後の研修会では、講師の榎伍魚福 商品本部統括次長 大橋弘樹氏より、「目に見える『商品』に、目に見えない『企画・提案・サービス』を付加して、売りたいことを買いたい人に情報として伝えることがいかに大切であるか

ということと、それには生産者と販売者との連携が不可欠である」と講義がありました。一般的には魚を毎日食べるイメージが無いなど、魚に囲まれた私たちとの認識の違いなども聞き、生産者と消費者の間を取り持つ大橋先生の講義は、今後の魚食普及や食育活動の大いに参考になると思われました。



審議の様子

英知を結集して組織の在り方に真剣な討議を (社)播磨漁友会

社団法人播磨漁友会の第24回総会が、今年は研修旅行を兼ねて、去る6月16日～17日、石川県で開催されました。総会では冒頭、井上会長が「平成20年度はまさに激動の年だった。燃油の高騰や魚価安、明石海峡の事故など漁友会にとっても試練の年だったが、会員各位のご理解、ご協力で若干の利益も出せた。また、飾磨の井上組合長がお亡くなりになり、心からご冥福をお祈りしたい。会員の合併が進み、かつて33組合あった当会は、8月に別府町と尾上の合併を含めると25会員になる。会員が減少することは寂しいが時代の流れであり、社会環境の変化とも相俟って、これからの漁友会の在り方について議論が必要だと思う。

30数年の歴史があり、諸先輩が営々と築かれた組織であり、その重みをしっかり受け止め、これから経費節減に努め、安定した運営を目指したい」と挨拶されました。

議案審議はJF室津中川組合長が議長となり、平成20年度事業報告及び収支決算報告並びに監事補欠選任の2議案が審議され、事業報告等は原案通り承認、また監事には中播磨地区から推薦された長澤明廣氏(JF網干)が、補欠選任されました。視察研修では航空自衛隊小松基地で航空防衛の現状、危機管理の重要性など説明を受け、キリンビール小松工場では、環境問題等について研修し、出席会員は大いに知見を高められたことと思います。

組合員のために保てる能力を最大限に発揮しよう 播磨地区漁協職員協議会

去る6月29日(月)、播磨地区漁協職員協議会の平成21年度総会が、姫路市内のホテルで代議員36名全員(委任状6名含む)が出席し開催されました。議事は、JF家島・村上敏男代議員が議長となり、平成20年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案、平成21年度事業計画及び収支予算、会費賦課額と徴収方法の3議案が審議され、いずれも原案通り承認されました。

総会開会にあたり、井上道郎会長(JF岩見)は「県下の漁協は厳しい経営環境にある。基盤強化に向けて播磨でも自主合併が進んでいる。合併が総てとは思わないが、組合員の高齢化や水協法の改正と組合員資格問題など、単協

職員自体が勉強し、知識能力の向上が強く求められているなか、基盤強化の一つの手段である。合併組合はメリット、デメリットを進んで情報公開し、漁協機能の強化に向けて議論を重ね、また、上部団体と連携を図っていく必要がある。」などと挨拶し、新しい知識の習得や横の連携強化に積極的な取り組みを訴えました。また、来賓を代表して姫路農林水産事務所鈴鹿主幹兼水産課長、(社)播磨漁友会井上会長、JF兵庫漁連山口専務が、漁協職員の役割と活躍に期待を込めて祝辞を述べられるなど、総会は盛会裡に終了しました。

平成21年度総会 城崎町で開催

兵庫県機船底曳網漁業協会

兵庫県機船底曳網漁業協会の平成21年度通常総会が、去る6月30日(火)城崎町で開催されました。この協会は、但馬の基幹漁業であり、地域経済の発展にも大きく貢献している沖合底曳網漁業の経営者で組織されており、(社)全国底曳網漁業連合会の県域団体として、日韓問題では浜田沖暫定水域の操業ルールの確立や、島根県、鳥取県との3県協議対策やTACなど、資源管理対策、大型クラゲ対策などの幅広い活動を展開しています。

毎年、この時期に開催される総会には、水産庁からは沿岸沖合課長や境港漁業調整事務所長をはじめ国・県関係者、(社)全国底曳網漁業連合会会長ほか県系統団体代表者など多数が出席され、熱心な議論が行われています。

総会は、吉岡修一会長の挨拶に続き、来賓祝辞、そして永年勤続乗組員表彰が行われたあと、平成20年度事業報告及び決算報告、21年事業計画と予算案や会費の徴収の件などが審議され、いずれも原案通り承認されました。また、今年は役員改選が行われ、新たに選任された13名の理事による別室協議の結果、会長には吉岡修一氏(再任：共

進丸)、副会長には川越一男氏(幸榮丸)が就任されました。

日韓関係では、暫定水域内で韓国が初めて海底清掃を実施することになったのは民間協議と成果であり、我が国でも日韓財団事業がらみで清掃予算など国の前向きな理解で運動が前進していることなど、吉岡会長から情勢報告も行われました。国家政策の違い、民族意識の違いで両国漁業者の認識差は大きく、先行きの不透明さは拭えませんが、協会関係者が一丸となって粘り強く運動を続けられることを願うとともに、内海の漁業関係者にもこの運動に対する理解を深めていただきたいと思います。



審議の様子

平成21年度 兵庫県漁青連・兵庫県女性連合同通常総会 兵庫県漁協女性部連合会50周年記念式典 開催

7月4日(土)、シーサイドホテル舞子ビラ神戸(神戸市垂水区)で、「平成21年度 兵庫県漁青連・兵庫県女性連合同通常総会」ならびに「兵庫県漁協女性部連合会創立50周年記念式典」が開催されました。

県下各JFの青壮年部・女性部員の代表の方々並びに県山村水産課長、JF兵庫漁連山口専務をはじめ県・系統団体から多数のご来賓にもご出席いただき、約210名の参加のもと、盛大に行われました。

まず、平成21年度合同通常総会では、県漁青連木下拓治会長、県女性連森武美会長の挨拶のあと、来賓の水産課山村課長、JF兵庫漁連山口専務、JF兵庫信漁連山田専務から祝辞が述べられました。総会については、議事は滞りなく進行し、県漁青連、県女性連ともに全議案は原案どおり可決承認されました。議案のうち、県女性連においては任期満了に伴う役員改選の結果、森武美会長が再選されました。

次に、会場を変えて、県農林水産部伍々博一部長、JF兵庫漁連山田隆義会長、JF兵庫信漁連秋武宏会長を新たにお迎えし「兵庫県漁協女性部連合会創立50周年記念式典」

が開催されました。

記念講演として、「♪ウチら陽気なかしまし娘」でお馴染みの正司花江さんにお越しいただき「人生花を咲かせたい」をテーマにご講演いただきました。ご両親からの言葉「笑顔を忘れず、“はい”と返事をして素直に生きること」を守ってきたことが人とのつながりをさらに深くし、幼いころから現在まで芸能生活を続けることができたことを、面白おかしくお話し下さいました。また、すばらしい歌声もご披露いただき、会場は大いに盛り上がりアンコールが終わっても拍手はしばらく鳴りやみませんでした。



～兵庫県女性連役員より～

兵庫県女性連が半世紀にもわたる間、様々な活動に取り組んで来られたのもひとえに、家族の理解と協力、親組合をはじめ系統、行政、関係各位のご支援とご指導あってのことと改めて感謝をいたします。今後も明るく豊かな漁村づくりを合言葉に、県下女性部が手を携え頑張っていきたいと思っております。



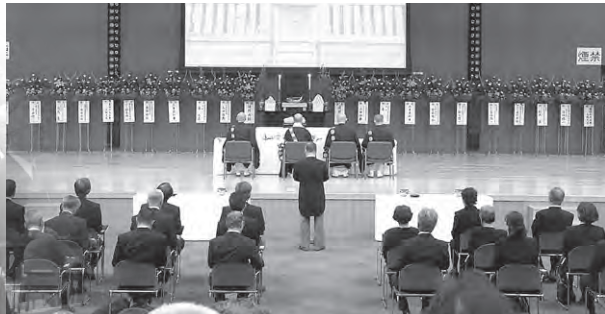
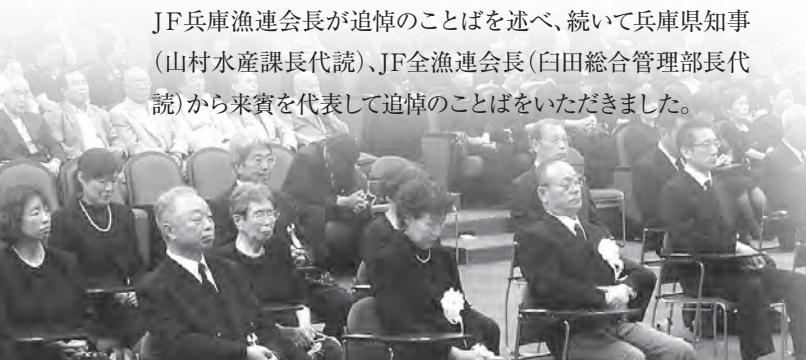
第34回 兵庫県漁民物故者合同供養祭開催

6月11日(木)「第34回 兵庫県漁民物故者合同供養祭」が、高野山大学松下講堂黎明館において漁業関係者ら189名の参列のもと、厳かに執り行われました。

初めに遺族代表の手によって、本年度に物故された178柱の芳名簿の奉納が行われ、その後、主催者代表で山田隆義 JF兵庫漁連会長が追悼の詞を述べ、続いて兵庫県知事(山村水産課長代読)、JF全漁連会長(白田総合管理部長代読)から来賓を代表して追悼の詞をいただきました。

読経のながれる中、主催者、来賓、ご遺族、一般参列者の順に焼香が行われ、山口徹夫 JF兵庫漁連専務の御礼と閉会の辞により式を閉じました。

これまでに合祀されたご尊霊は11,217柱となりました。心からご冥福をお祈りいたします。



NEWS

五色初潮会の料理教室

JF五色町青年部

6月13日(土曜日)午前9時から五色中央公民館調理室において、JF五色町主催の親子料理教室を開催しました。12組29名の地元親子が参加し、組合で水揚げされた、タコ・キス・穴子・ワカメを使用したタコ飯・キスの天ぷら・キスの吸い物を調理しました。参加者の中には、生の魚を調理した経験が乏しく、戸惑う場面も見られましたが、中には一度教えただけで料理人のようにキスを手際よく捌いていく子供もいました。JF五色町としては、今後このような催しを企画実施することにより、魚離れを食い止め、魚食普及に努めていく予定です。



慣れない手つきでタコを捌く



キスの天ぷらに挑戦

“ライフジャケット着用は家族の願い”

漁船保険事務研修会で山田組合長が呼びかけ

兵庫県内海漁船保険組合

兵庫県内海漁船保険組合主催の漁船保険事務研修会が7月7日(火)午後、神戸市有野町のホテルで開催されました。この研修会は昭和53年から毎年この時期に開かれており、今年も内海地区の漁協役員や関係者約150名が参加され、講師の話に熱心に耳を傾けていました。

研修会開会にあたり主催者の山田隆義組合長は「当組合が健全に役割を果たして来れたのは漁協の皆さんの力強いご支援ご理解の賜もの」と感謝の意を表され、また、去る6月24日発生した西二見漁協組合員の海中転落事故に触れ「海難事故は何時、何処でどんな形で発生するかは誰にも判らない。常日頃から操業安全へ意識啓発が必要であり、特にライフジャケットの着用義務化を推進してほしい」と、漁業操業の安全確保の大切さを強く訴えられました。このあと県水産課山村課長、漁船保険中央会山内顧問から来賓ご挨拶があり、続いて優良役員等の水産庁長官表彰、漁船保険中央会会長表彰の伝達授与、さらに沢辺専務から平成20年度事業報告及び21年度事業計画の概況説明が行われたあと、本題の研修に移りました。

研修Ⅰは「漁船保険における最近の動き」について漁船保険中央会企画指導部小林部長が講義され、全国での保険対応事

故を事例に漁船事故絶滅を訴えられました。研修Ⅱでは、神戸海上保安部航行安全課阿部課長、同交通課田中航行援助管理官から「海上航行安全について」の講義があり、播磨灘での漁船、プレジャーボートなど小型船の要救助海難の実態、そして様々な航路標識の役割や信号光の意味など説明しながら、家族のため、仲間のために漁業操業の安全確保、ライフジャケットの常時着用を呼びかけられました。出席者は、日々、沖で生業されている方もあり、海上交通の灯浮標には一定の知識を持っていたものの講師の説明から認識を改められた方もあり、海難事故防止へ意識啓発を図る機会として有意義な研修会となりました。



受講者の真剣な表情

石窯完成！ 山田錦の米粉でピザ作り

酒造好適米「山田錦」の米粉や小野産農産物を使ったパンを販売しているJA兵庫みらい『山田錦米パン工房』にこのほど、新たな取り組みとして導入した石窯が完成しました。

石窯は内側が耐火レンガ、外側が赤レンガの二重構造。見た目はヨーロッパ風の造りで、同工房の隣にあるハーブ園内に建てられています。まきを使うことで熱を中まで浸透させることができ、約300度の高温で一気に焼き上げるため、生地がパリッと香ばしく仕上がるのが特徴です。



完成した石窯

5月29日には石窯完成記念イベントを開催し、旬の野菜をふんだんにトッピングしたピザ180枚を来店者に振る舞いました。焼きたてのピザを受け取った来店者は「生地が香ばしく、モチモチしていてとてもおいしい。地元産のものばかりなので安心ですね」と笑顔でした。

今後は、たくさんの人に石窯の良さを体験してもらおうと「石窯ピザ親子体験教室」など、さまざまなイベントの開催を予定しており、寺若和則チーフは「ピザ作りなどの体験を通して、子どもたちを作る喜びや楽しさを感じてもらえれば。また、小野市のPRと特産品づくりに貢献できたらうれしい」と意気込みを話しています。



焼きたてのピザを受け取る来店者

<http://www.ja-hyogo.or.jp/>

「海辺の生き物調査」を実施しました

生協都市生活は、5月10日に海辺の生き物調査を、明石の大蔵海岸、西宮の御前浜・甲子園浜で延べ150人以上の参加で実施しました。3地点を回っての調査活動は今年で4年目です。

大蔵海岸では海岸の砂がさらわれて、岩が多く露出し、1m四方の中でのあさりの数を数える調査を今年に行うことができませんでした。でも今年初めてきれいな海の指標になるおおへび貝が見つかりました。

御前浜・甲子園浜では、砂浜を掘ると黒い水が出てきて、イボニシ（巻き貝）やアサリは見られたものの、残念ながら汚染に弱いカメノテは見られませんでした。

どの浜でも、汚れた海の特徴のアナアオサが多く見られました。以前に名古屋で見学した藤前干潟では、都会に近いにもかかわらず埋め立てしていない自然の干潟が守られ、多くの生物が生息し、生物の力で水が浄化されていました。しかし西宮では目前に埋め立て地の人工島があり、潮の流れも悪く、また水上バイクが行きかって



おり、なかなか浄化はすすんでいません。それでも船の塗料や漁網に使われていたトリブチルスズという環境ホルモン物質が規制されたために、一時は姿を消していたイボニシが増えているということも、子どもたちが一生懸命集めてくれたことで確認することができました。参加し、体験して気付くことって貴重です。「どうしたら海はきれいになるの?」という子どもたちの率直な質問にこたえるためにも、石けんの使用を広めたり、ごみを減らしたり、できることからやっていかななくては、とあらためて思いました。

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

水産技術センター研究発表会・見学会の開催

今年度は研究員による研究成果報告と青年部、女性部による漁業者活動実績の発表を行います。

日時

7月22日(水)

研究発表会：13:30～16:55

見学会：9:30～12:00

場所

県立水産技術センター

2F大研修室

(明石市二見町南二見 22-2)

研究成果報告では、今漁期のイカナゴシンコ漁の状況と不漁の原因についての検討、大阪湾～紀伊水道のクルマエビの放流効果、ベニズワイかにかごに取り付けた小型ガニ脱出リングの効果、アサリの人工種苗生産技術の開発および垂下養殖技術開発…と、本県における最新の研究成果を発表します。

漁業者活動実績では、但馬漁協香住地区青壮年部の稲葉貴之さんがベニズワイガニの資源回復の取り組み、但馬地区漁協女性部連合会の鮎谷嘉子さんが魚食普及の取り組みについて、それぞれ発表されます。

また、当日午前中にはお楽しみイベントを多数用意した見学会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。



お問い合わせ 同センター普及担当 電話：078-941-8601

旬に想う

写真と文
遊方子

にがいが美味しい

◆沖縄で常食している野菜に、苦みの強いニガウリとヨモギがある。ヨモギは草餅に入れて食材にもなるが、通常は殖えて困る雑草として扱う。沖縄ではヤギ肉を食べるため、匂い消しにヨモギが最適だという。山菜の手引きにも掲載されているが、非常に苦くて美味とは言い難い。子供の頃、薬用図鑑でツルレイシの名前を覚えた。赤いタネの周囲を食べた記憶があるが、野菜ではなかった。近年、食の話題にテレビでも紹介され苦い食材と知ったが、苦さの中に何か後を引く善さがある。沖縄は長寿県としても知られニガウリ人気は急上昇、スーパーの食品売り場に並ぶようになり、夏野菜として定着したようだ。

◆ニガウリの正式名ツルレイシは、熱帯果実のレイシを連想させる所からの命名という。原産地は熱帯アジアで高温多湿の気候に適し乾燥に強い。中国へは明(みん)の時代に入り、華南から華北へと北上したという。漢名では苦瓜(クウガ)。日本へは16世紀末に中国から伝わったらしいが、中国と独自に交易していた沖縄へは、その過程で直接伝わったと考えられる。南方の国々では重要な野菜として通年栽培され、猛烈に苦い品種もあるそうだ。円筒形と紡錘形があって、苦みや水分の量が微妙に異なる。病害虫に強いから育て易い。

◆「薬食同源」の中国では、食物の味への嗜好によって、体質や体調の変化を判断するという。これは物事すべて陰陽があって、そのバランスが崩れた時には、反対の食性のものを摂れと教え

ている。人の味覚は、酸・苦・甘・辛・鹹の《五味》に分類され、食物は涼・寒・平・熱・温の《五性》に分かれるという。この分類でニガウリは「苦・涼または寒」に属し、体を冷やす食べ物となる。夏の暑い盛り、苦みの強い個性派野菜にスカッとした善さを感じる。

◆野菜の栄養をいう場合、ビタミン・ミネラル・食物繊維の含有量を考える。ニガウリで特筆すべきはビタミンCの多いことだ。ビタミンCは皮膚や骨を作るのに必要なコラーゲンの生成を助けるが、酸化されると働きを失う。加熱により損なわれ易いが、ニガウリやピーマンなどは固い細胞壁に守られており、成分が外へ流出し難く残存率が高くなる。茹でたブロッコリーと比べると、油炒めしたニガウリの値は2倍以上も残っている。苦み成分のモルモルデシンに、肝機能を高める効能が期待出来るし、さらに健胃、鎮静作用もあって食欲増進に役立つ。栄養価の面でも大いに薦めたい。苦くて美味しい夏の野菜である。



「アガパンサス」

大輪田塾だより

「消費流通」と「栽培漁業」

6月23日(火)、兵庫県立水産会館で大輪田塾が開催され、(株)伍魚福の大橋弘樹商品本部統括が「価値を表現するのが企画力」と題し、また(財)ひょうご豊かな海づくり協会の永山博敏主幹兼海洋保全課長が「兵庫の栽培漁業の概要」と題して講義が行



質疑に应答する大橋講師

われました。

今回の講義も3・4期生あわせて7名が受講しました。

大橋統括は、(株)伍魚福が商品企画や物流・売場提案を行う「工場なきメーカー」である

ことや、本当に売りたい商品を顧客に買わせるための手法を「明石ダコのやわらか旨炊き」を例に講義され、また、永山課長の講義は、「つくり育てる漁業」の中での栽培漁業の位置づけや養殖業との相違点、種苗生産における問題点など、さらには新規種苗生産魚種の進捗状況まで網羅した内容となりました。

塾生は、生産者と販売者の思惑の接点や、中間育成と放流に関して質問を繰り返していました。



永山課長の講義

表紙の言葉



「JF兵庫漁連山田隆義会長から贈られた祝鯛を掲げる井戸敏三知事」

7月5日、兵庫の水産業界を挙げて支援する井戸敏三氏が兵庫県知事選に連続3回当選され、漁業者を代表してJF兵庫漁連会長、山田隆義氏が祝鯛を贈りました。